

カトリック 仙台教区報

2005年1月2日 No.161

発行
カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

エウカリスティアの年が目指すこと

仙台教区神学顧問 佐々木 博

新しい千年期の光

命であるエウカリスティア 教区報の前号(160)で、第48回国際聖体大会に仙台教区から参加された方々の感動的な報告が掲載されましたが、この大会のテーマは「新しい千年期の光、命であるエウカリスティア」でした。2004年10月17日に大会は最終日を迎えたのですが、その日に教皇ヨハネ・パウロ二世は、聖ペトロ大聖堂で全世界の教会のための「エウカリスティアの年」の荘厳な開会式を司式なさいました。この「エウカリスティアの年」は、2005年の10月までの一年間ですが、教皇はその趣旨を説明する使徒的書簡『主よ、一緒に泊まりください』を、2004年10月7日に発布なさいました。この書簡によって、教皇は全世界の信者がこの一年間、「新しい千年期の光、命であるエウカリスティア」キリストに対する信仰を一致して深めるように招いておられます。次に、わたしたちのエウカリスティアの理解と信仰を深めるために、この書簡の主旨を解説いたします。

エウカリスティアの豊かな内容

エウカリスティアという言葉はギリシヤ語で感謝を表す eucharistia の音訳であり、最後の晩さんにおいて御からだと御血による感謝の奉獻がなされた、イエスの死と復活の記念祭儀の全体を表す言葉であります。ですから、この言葉

を「聖体」と訳して御からだに限定した狭いところからえ方になります。



「わたしたちの救い主は、引き渡される夜、最後の晩さんにおいて、御からだと御血による『感謝のいけにえ』を制定されました。それは、十字架上の奉獻を主の再臨まで世々に永続させ、しかも、愛する花嫁である教会に、ご自分の死と復活の記念祭儀を託すためでありました。すなわち、これは、慈しみの秘跡、一致のしるし、愛の絆、キリストが食され、心は恵みに満たされ、そして未来の栄光の

保証が与えられる復活のうたげであります」(『典礼憲章』47項)。これが、エウカリスティアの豊かな内容です。

光の神秘であるエウカリスティア復活させられたイエスに気づくために、クレオパともう一人の弟子は、イエスから聖書全体にわたって説き明かしていただきました(ルカ24・27参照)。そのとき、彼らの心は燃えていました。わたしたちも、特にミサの「ことばの典礼」において深く

味わったみことばが、人々の命と光になるような体験が必要であります。まことの食べ物である御からだ、まことの飲み物である御血をいただくのは(ヨハネ6・55参照)、「永遠の命の言葉を持っておられる」(ヨハネ6・68)主をいただくことに他なりません。ですから、ミサにおいて「ことばの食卓」と「パンの食卓」に与ることによって、イエスに結ばれるのであります。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」ことが、正にエウカリスティアによって体験できるのであります。

交わりと一致の源 顕現であるエウカリスティア

「わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている」(ヨハネ15・4)ことをエウカリスティアによって強め、「パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体である」(1コリント10・17)ことを体験します。そして、「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17・21)というイエスの祈りがエウカリスティアによって実現していくのです。

宣教の基本と計画であるエウカリスティア

エウカリスティアによって、福音を伝えるために全世界に派遣され、また、特に最も小さき兄弟に仕えるために出かけて行くのです。そして、「教会はキリストにおける秘跡、すなわち神と人との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である」(『教会憲章』1項)ことを、エウカリスティアによって具現していくのであります。また、わたしたちは、引き裂かれた世界のただ中に派遣され、まことの平和を実現するためにエウカリスティアを祝うのです。

この一年、エウカリスティアの恵みを豊かに体験することによって信仰を深め、福音を伝えるために、人々のもとへの派遣を實踐することが、この書簡の趣旨であります。【『塩と光』は3頁】

福島カトリック教会創立100周年

100年への感謝と新たな歩み！

11月7日福島カトリック教会は、起源を同じくする松木町、野田町、二本松、飯野、桑折の各教会合同による創立100周年記念式典を行なった。感謝の記念ミサは松木町教会において捧げられ、約250名が参加した。

記念ミサはカトリック「よう」との説教があり、ミサの中ク仙台教区管理者平賀徹夫神父、ドミニコ会日本管区長田中信明神父をはじめ6名の司祭による共同司式で捧げられた。「まず100年を導いて下さった神様の恵みに共に感謝し、新たな歩みを始めまし

1632年、二本松で14名のキリシタンが殉教した。300年前の旧福島村の時代には19名のキリシタンがいたが、1782年の迫害によって皆無となった。その後の困難の中で100年前に



函館司教ベルリオズ司教（パリ外国宣教会）により福島カトリック教会が創立された。創立当時4家族約16名ほどの信徒であった教会は、現在までに4教会合わせ約3、240名が受洗した。この間仙台教区の歴史の代司教と、松木町教

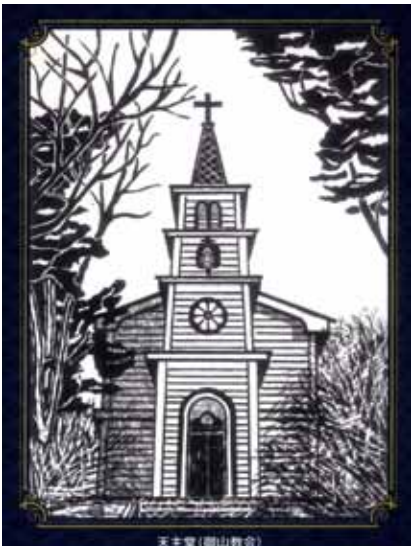
会は二十代、野田町教会は二十一代にわたる神父たちの司牧により、また、パリ外国宣教会、ドミニコ会、コングレガシオン・ド・ノートルダム（ノートルダム）の力によって発展してきた。それは、草創期から戦前・戦中の困難な時代を経て現在に至るまでの神の導き、私たちの先達、先輩の信仰の証に傾けた努力など、100年という重みが記念誌からも伝わってくる。



福島教会 100年の歩み

記念誌「福島カトリック教会 100年の歩み」より抜粋

西暦	年号	内容
1632	寛永 8	キリシタン 14 名が二本松 供中河原で殉教
1703	元禄 16	福島村に19名のキリシタンを数える
1782	天明 2	キリシタン皆無となる
1873	明治 6	キリシタン禁教令解かれる
1877	明治 10	福島は若松の巡回地となる
1885	明治 18	若松教会聖堂献堂式
1888	明治 21	最初の受洗者パウロ久保田友治
1904	明治 37	福島町信夫山に土地建物を取得 (通称御山教会の創立)
1912	大正元	若松教会聖堂新築 献堂式
1915	大正 4	信夫山に聖堂建築落成 献堂式
1945	昭和 20	教会誌『アンジェルス』創刊
1954	昭和 29	松木町教会献堂式
1957	昭和 32	飯野教会献堂式
1958	昭和 33	桑折教会祝別式・二本松教会献堂式
1960	昭和 35	飯野教会聖ヨゼフ伝道館完成
1964	昭和 39	野田町教会献堂式
1970	昭和 45	第1回福島県カトリックの集い
1979	昭和 54	桑折教会落成 献堂式
1987	昭和 62	野田町教会信徒館落成祝賀会
1988	昭和 63	松木町教会伝道館落成式
1992	平成 4	第1回二本松殉教祭
2003	平成 15	二本松教会に殉教碑建立 祝別除幕
2004	平成 16	福島教会創立 100 周年記念行事



天主堂（御山教会）記念誌表紙より

祝賀会にはプロテスタントの牧師先生もご出席くださり盛会だった。私達はこの100周年を一つの通過点として、「今」を見つめ、100プラス1の新たな歩みにおいて、祈りつつ主のみ言葉を「伝える」「その時」であると実感した。

(松木町教会信徒会長 鈴木教弘)

「人権を考える 女性に対する暴力」

仙台教区修道女連盟研修会

勤労感謝の日の11月23日、仙台教区修道女連盟主催の講演会が、元寺小路教会1階会議室で午前10時から開催された。

「人権を考える 女性に対する暴力」というテーマで、ハートイ仙台(仙台女性への暴力防止センター)世話人代表の八幡悦子さんを迎えて、講演を聞き、ビデオを見、ロールプレイなどで、DV(パートナーから女性への暴力)の実情、その防止のための働きなどについて学んだ。

広く一般に開放した講演会

通常、秋の修道女連盟の研修会は、院長を対象としていたが、テーマの重要性と必要性から、今回は院長だけでなく、すべての修道女を対象を広げただけでなく、修道女連盟の枠を超えて広く参加を呼びかけることとなった。当日は男性の参加者信徒の参加者も含め、100名以上が参加した。

DVと性暴力の根絶、その被害者の支援活動を10年以上続け、被害者を支援するシエルタの運営も97年から始め、DV被害者支援の点では第一人者

である八幡さんは、日頃の活動を通して体験している事例を紹介しながら、概略、以下のよう話した。



最初は、離婚問題を抱えて悩んでいる女性たちの相談に乗っていたが、離婚を考える女性が多くはDVの被害者であることが分かってきた。そのためDVとかわるようになった。次にDVの被害者とかかわ

つてくると、その被害が子どもにも及んでいる事実直面し、今度は、子どもの性教育にかかわるようになった。こうして、次々と活動分野は広がって

つた。

DVを引き起こす原因

DVを引き起こす原因をさぐってみると、三重のピラミッド構造を見ることが出来る。

一番底辺には、法的にも職業の面においても男性優位の社会、つまり、性別社会の構造があるということである。中層は、加害者が持つコンプレックス、最上層にあるのが、酒、ドラッグなどであるが、これはきつかけにすぎない。

日本社会は、男性優位の社会構造を持ち、DVは、多くの場合「夫婦喧嘩」としてかたづけられ、これまであまり、表面化しなかった。

しかし、DVの特徴は、暴力のサイクルを持つことである。暴力期、ハネムーン期(和解)、緊張期を繰り返していく。このサイクルの特徴は徐々に間隔が狭まってくることである。女性性、夫や恋人からの暴力により、無気力に陥ったり、自尊心を失ったりして暴力から逃れられなくなる。

一言で暴力と言っても、身体的暴力とともに、心理的暴力(例えば、言葉による暴力)、経済的暴力、性的暴力、子どもを利用した暴力、脅迫、社会的に孤立させるなど、さまざまな

暴力も加えられる。

加害者の共通点は女性蔑視

DVによって妻が家を出、実家に帰っても、実家に来て頭を置にすりつけて許しを請う夫の姿を見ると、もう暴力はふるわれないという約束を信じて妻は家に帰った。しかし、暴力は激しくなるばかりで、再び家を出ることになった。荷物を取りに帰ったところを夫に殺されたという事件も実際に起きている。

どのDVの事例でも、加害者である男性は、年齢もばらばら、職業もすべての職業に及んでおり、社会的地位も関係なく、千差万別である。しかし、彼らにはある共通点がある。それは、女性を差別している男性であり、コンプレックスを持っているということである。

このようなDV問題に対する相談窓口は多い。ハートイ仙台もその一つである。その他、「女性への暴力電話相談」「みやぎ被害者支援センター」などがある。区役所の窓口には、DVに関するパンフレットが置いてあるので、利用してほしい。

(4 p. 特別寄稿参照)
(Sr. 長谷川)

塩と光

「主に望みをおく人は 新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない」(イザヤ 40・31)。新しい年の初

めにあたって、わたしたちは新たに霊的な力をいただくことができます。年齢を重ねることによって、確かに体力は衰え、身体的機能にも障害が生じてきます。しかし、霊的に若返って行くことができます。「だからわたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えて行くとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされて行きます」(2コリント 4・16)。信仰によって生きるいのちは新しいのちです。かえって若くなって行くのではないのでしょうか。それは、「古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされ、神にかたどって造られた新しい人を身につけて」(エペソ 4・22) いくことができるところです。この新たに与えられた一年が、新しいいのちを更に豊かに生きることが出来る年となるように、新年の挨拶を交わすのです。(博)

特別寄稿

「DV被害者の自立支援と児童虐待」

特に性暴力の深刻性について

仙台女性への暴力防止センター（ハティ仙台）

世話人代表 八幡悦子

「暴走族に入りました」、す。暴力を振るわない平等な人にして子どもは理解できない。更衣入浴の機会に関わる、側に寝ることを強制する妻の代行者にされたゆくなどもあります。仙台市に協力して性暴力のパンフレットの作成に携わりました。

わたしたちは離婚の相談を15年行ってきた。離婚とDVの話し合いの場を10年開いていま

「長期計画を立てました。希望を持ちました」など、実体験なので説得力があるのです。不安そうな表情、涙、涙で言葉が出ない人が、帰る時には明らかに変わります。

深刻です。しかし、DV被害者の女性は、自分の性暴力被害は語っても、子どもへの暴力は知らないか、知らないふりをしているか、知っていても話さないのです。性暴力は子どもサイドに立つ人（保育士、養護教諭、学校教師、近所の大人、児童保育の人、保護部門の人、子ども相談の窓口、小児科医、小児精神科医など）からしか発見できない事が多いのです。

私達の目的はDVと性暴力の根絶 被害者支援です。シエルタの運営も97年から行いました。また、行政と連携して啓発活動もしております。パンフレット、ポスター、カード、対応の手引き書の作成、調査、電話相談の委託、研修等の活動です。

早期に暴力から子どもを救い出すことが最も有効です。私は、今後も出来る事を、出来るまで続けて行きたいと思えます。

現在シエルターでは、年間10組りも別居、離婚、調停、裁判の実験者の話が聞けるところがポイントです。

また、大事な事はDV性暴力について語り合う事です。「自分を責めていたけど違っていた」、心細げだった女性が怒り出します。これが大事な事です。若い人が年上の人に聞きます。「子どもはなにが起きましたか?」、「引き篭もりました」、「食べ吐きです」、

「暴走族に入りました」、す。暴力を振るわない平等な人にして子どもは理解できない。更衣入浴の機会に関わる、側に寝ることを強制する妻の代行者にされたゆくなどもあります。仙台市に協力して性暴力のパンフレットの作成に携わりました。

「長期計画を立てました。希望を持ちました」など、実体験なので説得力があるのです。不安そうな表情、涙、涙で言葉が出ない人が、帰る時には明らかに変わります。

「暴走族に入りました」、す。暴力を振るわない平等な人にして子どもは理解できない。更衣入浴の機会に関わる、側に寝ることを強制する妻の代行者にされたゆくなどもあります。仙台市に協力して性暴力のパンフレットの作成に携わりました。

「長期計画を立てました。希望を持ちました」など、実体験なので説得力があるのです。不安そうな表情、涙、涙で言葉が出ない人が、帰る時には明らかに変わります。

「暴走族に入りました」、す。暴力を振るわない平等な人にして子どもは理解できない。更衣入浴の機会に関わる、側に寝ることを強制する妻の代行者にされたゆくなどもあります。仙台市に協力して性暴力のパンフレットの作成に携わりました。

「長期計画を立てました。希望を持ちました」など、実体験なので説得力があるのです。不安そうな表情、涙、涙で言葉が出ない人が、帰る時には明らかに変わります。

「暴走族に入りました」、す。暴力を振るわない平等な人にして子どもは理解できない。更衣入浴の機会に関わる、側に寝ることを強制する妻の代行者にされたゆくなどもあります。仙台市に協力して性暴力のパンフレットの作成に携わりました。

「長期計画を立てました。希望を持ちました」など、実体験なので説得力があるのです。不安そうな表情、涙、涙で言葉が出ない人が、帰る時には明らかに変わります。

「暴走族に入りました」、す。暴力を振るわない平等な人にして子どもは理解できない。更衣入浴の機会に関わる、側に寝ることを強制する妻の代行者にされたゆくなどもあります。仙台市に協力して性暴力のパンフレットの作成に携わりました。

「長期計画を立てました。希望を持ちました」など、実体験なので説得力があるのです。不安そうな表情、涙、涙で言葉が出ない人が、帰る時には明らかに変わります。

ハティ仙台
電話相談
022 - 225-8801
女性の悩みホットライン
(第1・第3火曜)
性暴力被害ホットライン
(第2火曜)
いずれも
18:30~21:00



聖霊による刷新東北大会

「歩こう主イエスの道を」

11月5日(金)の夕方から7日(日)までの日程で、「第27回聖霊による刷新東北大会」が仙台市太白区にある茂庭荘を会場に開催された。折しも紅葉の季節で、会場付近の木々は鮮やかに彩られ、天候にも恵まれ、大自然の恵みのうちに祝福と歓迎を受けているようだった。

大会のテーマ「歩こう主イエスの道を」 霊の導きに従って前進しましょう (ガラテヤ5・25) に、東北、関東地区はもちろん、北海道、九州から、90余名の参加者が集まった。講話は昨年と同じイエス会の裏辻洋二神父、地元のラシヤペル神父、一日目のミサには教区管理者の平賀徹夫神父が司式してくださった。

講話、説教を通して、「イエスをキリストとして信じる信

典礼の霊性を深める

神学顧問 佐々木博

典礼によって「復活秘義」を生きる

ミサの「感謝の典礼」において、司祭は「奉献文」を唱えますが、その「記念唱」で司祭の「信仰の神秘」という呼びかけに対して、会衆は、主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで」と答えます。ミサにおいて、「復活秘義」を祝つのであります。「復活秘義」の起源は、旧約時代の「過越祭」にさかのぼります。イスラエルがエジプ

トでの奴隷状態から解放された決定的な救いの体験を、毎年春の「過越祭」(出エジプト12・1 27参照)として祝つていきましたが、教会は「過越の小羊」(1コリント5・7参照)として十字架上でほふられたイエスの復活を祝う「復活祭」に発展させました。「人は洗礼によってキリストの過越の秘義に継ぎ木されてキリストと共に死に、共に葬られ、共に復活する。同様に、主の晩さんを食べる度ごとに、再臨の日まで、主の死を告げるのである。教会は、『復活秘義』を祝うために共に集

仰」にしっかりと立つて生きるということ。優先順位として神を第一として生きていくことが強調され、それを実践していくならば私たちの人生に変化が現れてくる。イエスをキリストと信じる信仰の太いパイプが私たちの心と体に貫通され、霊の導きに従って前向きに生きて行こうと促された。

テーマの「歩こう主イエスの道を」は、イエス様ご自身が歩み通された道、果たされた使命の道、十字架の道であり、私たちの苦しみの道でもあることをしっかりとつかんで生きて行

まることを欠かさなかった」(『典礼憲章』6項)。
エマオに向かつて旅をしたクレオパともう一人の弟子たちのように、ミサの「ことばの典礼」と「感謝の典礼」によって、正に復活のイエスにお会いできるのであります(ルカ24・13 35参照)。それは、日々古い自分に死んで、新しい復活のいのちに生きるためでありませぬ(ローマ6・3 8参照)。「いのちのことば」と「いのちのパン」に養われてこそ、復活のいのちを豊かに生きることが出来るのです。

きたいと強く感じさせられた。

東北大会の長い歴史の中で、私たちは、神に導かれ、成長させていただいていくことを、小グループの分かち合いで確認しあつた。人間はそれぞれ苦しみを抱えながらイエス様が歩かれた道を歩いている。分かち合いを通して、一人で悩んでいたことが嘘のように静まり、イエス様と共に歩むことで、生きる力が湧いてくる。光が見えてくる。希望が湧いてくる。ほんとうに不思議な体験だった。それぞれ個性ある兄弟姉妹の集いとして、各グループの特徴がありながらも、神の愛を体験する時間を持てた。

大会の中でいただいた恵みが、それぞれの場に派遣された時、光となっていくために、神様からの恵みを惜しみなく分け与えることが出来るよう願ひ求めて生きたいものである。「イエスをキリストとして信じる信仰」に立つて生きることで、そしてイエス様が一人ひとりに向き合い、心に触れて下さるよう、私たちもイエス様に倣つて生きていくならば、きつと霊の結ぶ実を収穫できるよ

うになるだろう。
(四ツ家教会・長岡紀子)

推進の福者	加賀山隼人
列教者	撰津国高槻に
殉教者	生まれた。10歳
日本名	の時にフロイ
スゴ	ス神父より受
小工	洗。高山右近の
デ	家臣として文
	武、特に信仰に
	励む。右近は1
	580年改易
	となり、隼人は
	キリシタン大

名蒲生氏郷を頼つて会津若松に赴いた。氏郷の死後、丹波の領主細川忠興に仕えた。関が原の戦い(1600)の後、九州に下り、中津においては、郡奉行として近郊一帯をキリスト教化するのに一役かった。小倉に移り住み、細川家の家老職が果たす。1614年徳川禁教令が出され、主君の細川忠興は度々隼人に棄教を迫つた。「時勢に順じては・・・」という忠興のことは彼を説得することとはなかつた。また、「心で信じていればそれでよいのではないか」ということは彼を納得させなかつた。堅固な彼の意志を覆すことが出来ず、忠興は隼人処刑を決定。1619年10月15日、小倉において斬首、殉教した。享年54歳。

1566年

風雪を越えて70年

会津若松ザベリオ学園創立記念式典

会津若松ザベリオ学園は、1934年に幼稚園を開園して、今年で70年を迎えた。戦後の、49年に小学校を、55年に中学校を、そして58年に高等学校を開設し、現在700余名の園児・児童・生徒が学ぶ学園となっている。設置母体は無原罪聖母宣教女会（本部モントリオール）であり、郡山市にも同じ名前の幼稚園から中学校までの学園をもち、東京には世田谷聖母幼稚園を持っている。東北地区のカトリック学校はその多くが県庁所在都市や比較的人口の多い都市にあるが、会津若松ザベリオ学園は、人口10万余の小



都市にあつて地域に密着して70年を生き、福音宣教を推進している。

11月19日の会津若松市民会館での式典には、理事長の式辞の後、福島県知事や会津若松市長、仙台教区管理者の平賀神父などからの丁寧なご祝辞をいただいた。学園発展のためにご貢献いただいた方々への感謝状贈呈の後、園児児童生徒の代表の感謝の言葉があり「写真、校歌で式を締めくくった。式後は、記念講演があり、前宮城大学教授で現在は鈴鹿国際短期大学長である理学博士、佐治晴夫氏の『星から生まれた私たち』と題する、大変興味深い講話をいただいた。後半で佐治氏は、自分がNASAから飛ばして大気圏外に出たバツハのプレリユードを自分で演奏して聞かせてくれた。

2年前に小学校の校舎を焼失したが、1年前に最新の設備を誇る温かみのある新校舎が完成したので、これが神様の与えてくださった記念事業となった。そしてこの1年間に記念年として、一昨年の12月には学園クリスマスという形での、園児・児童・生徒全員が出演しての、学園クリスマス・ページェント、そしてこの年には、本学園の香港の姉妹校GOOD・HOPE・SCHOOLとの合同記念演奏会を市民会館で開催した。そして学園祭やバザーも記念行事として実施するなど、盛りだくさんの行事をこなしてきた。加えて記念誌も内容や編集技術の優れたものが出来上がり、無原罪聖母宣教女の会津若松での宣教の歴史が実に丁寧に記録されていて、後世の貴重な資料となった。

会津の良心、心の教育70年の会津若松ザベリオ学園は、主の恵みと導きのうちにこれからも勇躍たる歩みを続けてゆく。（中学高等学校長 佐藤 大）

前教会のフォレ・エノ神父により執り行われた「写真」。年長の園児全員による聖書朗読、園児・保護者・教職員による祈り、司式司祭により、「一人ひとりが神様に愛され、伸び伸びと育つように。ご出席の皆様や幼稚園の発展にご尽力くださった皆様の上に神様の祝福がありますように」との祈りが唱えられ、祝福が行われた。

続いて東北カトリック学園理事長佐藤守也神父が式辞を述べ、二唐昇園長が「70周年を迎えることができました」とは、神様のお導きと、皆様のご支援のお陰であり、創立者のドミニコ会コルヌス神父の子どもへの深い愛情を受け継いで、『イエス様の愛を子どもたちとともに』を今後とも実践してまいります。」と挨拶した。

さらに式典の中で、「ありがとう70年」イエス様の愛を子どもたちとともに」のDVDが上映され70年の歩みが紹介された。

園児・保護者・教職員による祈り、司式司祭により、「一人ひとりが神様に愛され、伸び伸びと育つように。ご出席の皆様や幼稚園の発展にご尽力くださった皆様の上に神様の祝福がありますように」との祈りが唱えられ、祝福が行われた。

弘前カトリック幼稚園 創立70周年

学校法人東北カトリック学園

11月5日(金)午前10時から、弘前市文化センター大ホールにおいて、創立70周年記念式典が行われた。園児134名、保護者、来賓、教職員を合わせて約300名が参列した。

感謝の祭儀は、カトリック弘前カトリック幼稚園理事長佐藤守也神父が式辞を述べ、二唐昇園長が「70周年を迎えることができました」とは、神様のお導きと、皆様のご支援のお陰であり、創立者のドミニコ会コルヌス神父の子どもへの深い愛情を受け継いで、『イエス様の愛を子どもたちとともに』を今後とも実践してまいります。」と挨拶した。



園児・保護者・教職員による祈り、司式司祭により、「一人ひとりが神様に愛され、伸び伸びと育つように。ご出席の皆様や幼稚園の発展にご尽力くださった皆様の上に神様の祝福がありますように」との祈りが唱えられ、祝福が行われた。

続いて東北カトリック学園理事長佐藤守也神父が式辞を述べ、二唐昇園長が「70周年を迎えることができました」とは、神様のお導きと、皆様のご支援のお陰であり、創立者のドミニコ会コルヌス神父の子どもへの深い愛情を受け継いで、『イエス様の愛を子どもたちとともに』を今後とも実践してまいります。」と挨拶した。

さらに式典の中で、「ありがとう70年」イエス様の愛を子どもたちとともに」のDVDが上映され70年の歩みが紹介された。

園児・保護者・教職員による祈り、司式司祭により、「一人ひとりが神様に愛され、伸び伸びと育つように。ご出席の皆様や幼稚園の発展にご尽力くださった皆様の上に神様の祝福がありますように」との祈りが唱えられ、祝福が行われた。

(二唐昇)

WYD 2005 ケルンに向けて



2005年ワールド・ユース・デイ(WYD)は、ドイツ・ケルン市で行われる。今年のテーマは「わたしたちはイエスを拝みにきました」(マタイ2:2)ということで、教皇様は、世界中の若者に向けてメッセージを送られた。

2004年11月27日(土)松浦司教様を迎えて仙台カテドラル元寺小路教会で、若者たちの集い「写真」「星の巡礼」キリストを目指して」が行われた。

イエス様を拝みに

いきましょつ

北仙台教会 佐藤 彩 教区補佐司教)を招いての若者の集いには、多くの若者が集まった。遠く離れたドイツ・ケルンで、また仲間と会うため、新しい何かを、見つけに行くため、自分自身の信



仰について見直すため、そんな思いを持った若者に対し、司教様はケルンに向けて何らかの目的を持つようとおっしゃった。そんな立派な目的でなくても良い、ただケルンに行きたいというその意識を持つことだけでも何かが変わってくる。

今日の分かち合いをする中で、

呼びかけ

大阪聖ヨゼフ宣教師修道女会

Sr. 川水 真奈美

幼い頃の私は仮面越しに人と接しているような違和感を持っていました。「本当の私?」という疑問は思春期の頃多くの人が持つことです。私の心えは一人のシスターの呼びかけで始まりました。呼びかけに心え修道院で生活して、多くを学び苦しみ反抗し、大いに笑いました。友

招きにごたえて



達の外に楽しいことが一杯あるのに?といます。しかし、それらは心えになつてはくれませぬ。心えはそこにはないのです。祈りや研修の中で神に愛され

これまで向き合つたことを迫ってきます。その呼びかけに、時には心え、時には静かに後ろを向きます。出来ませんと叫びます。それでも絶え間ない関係性回復への呼びかけは続き、私を導きます。神はそのままの私を受け止めてください。ともに歩んでくださる周囲の人々に感謝しつつ、一歩一歩進んで行きたいと思ひます。

私は2年前のWYDを振り返った。水しか出ない小学校での生活毎日寝袋で、配給の小さなリンゴを毎日食べて、教皇ミサのために炎天下5時間の徒歩による巡礼そして野宿、嵐・・・。映画のワシオンが毎日繰り広げられた。そして私自身も大きく変化した。話を聞くだけでは、とてもじゃないけど不安になるような事ばかりであるが、実際にWYDに参加した若者を見てください。みんなそれぞれが、宝物を見つけて帰ってきました。

現代社会の波にもまれ、それでも一生懸命頑張っている若者がたくさんいる。WYDは、そんな自分自身を振り返りながらも、神様と出会う場所であると思う。なぜなら、そこに集う仲間たち一人ひとりの中に神様がいるのだから。「わたしたちは、イエスを拝みに来たのです」、これが今回のWYDのテーマである。輝く星に導かれ、博士たちが旅に出て救い主に出会ったように、きつと私達も出会うことでしよう。素晴らしい仲間たちと共に!

WYDケルン大会スケジュール

8月15日(月)	到着、マリア祭
8月16日(火)	朝の祈り、スピリチュアル・センター、カルチャー・ガイド、パーマネント・センター、歌と祈りの準備プログラム、ヨアヒム・マイスナー枢機卿による開会ミサ、地域のフェスティバル
8月17日(水)	朝の祈り、カテケージス、ゆるしの秘跡 ミサ、野外音楽コンサート、ユース・フェスティバル
8月18日(木)	朝の祈り、カテケージス、ゆるしの秘跡 ミサ、歌と祈りの準備プログラム、教皇ヨハネ・パウロ二世歓迎式典、インターナショナル・フェスティバル
8月19日(金)	朝の祈り、カテケージス、ゆるしの秘跡 ミサ、ユース・フェスティバル、十字架の道行き
8月20日(土)	各小教区での閉会式、滞在していた小教区から出発マリエンフィールド(ケルン大聖堂からおよそ15km)へ向かう(徒歩巡礼)、合同で歌と祈り、その間ゆるしの秘跡 教皇ヨハネ・パウロ二世と共に夕べの祈り
8月21日(日)	朝の祈り、教皇によるミサ、歌付きでのフィナーレ

詳しくはWYD日本事務局公式ホームページでお確かめ下さい。
<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/committee/wyd/index.htm>

「家庭いのち 召命」への奉仕をめざして 仙台で日力連理事会

日本カトリック女性団体連盟2004年度第3回理事会在仙台で開催された。顧問の宮原良治司教(大分教区)、深堀牙子会長(名古屋)ら、北海道から沖縄まで18名が集まった。

10日は東仙台教会を聖体訪問。隣接するスベルマン病院ホスピス病棟を見学。Sr リーズ、Sr 山田にパストラルケアの状況を聞いた。その後、司教館内

を梅津神父様に案内頂いた後、司祭の家に鷹嘴神父様と第23回仙台大会で支援くださった深沢神父様を訪ねた。善き牧者修道院ではSr 春山よりDVシエルトアの現状報告を聴き、この日は、日力連の基本テーマ「家庭・いのち・召命」を身近に学ぶ恵みを頂いた。

11日は元寺小路教会でミサにあずかり、日力連の今後の在り方の研修会。宮原司教様の

「ことばを越えた心の通い合う家庭づくりが大切。家庭の中で祈る習慣は神との交わりが定着し、召命が見えてくる。また現在はバビロン捕囚時代と同じような状況にあり、神と人間が離れ歪みが出ている。私たちは神の似姿に作られ、どれだけ愛されているか意識し、自分を愛し受け止められるか。また周りの人がその人らしく生きて生けるように、その人の幸せを願うことにより、神の愛に出会う」などのお話しを分かち合

る熊本カトリック女性の会からの加盟申請が承認され、召命の輪が広がったことも大きな喜びとなった。

12日の会議では、30周年記念長崎大会の報告「いのちを守る運動基金」のDV関連施設への献金、「召命の祈り」カードの活用とともに、福岡・東京の大

新米神父行状記

川崎 忠紀

<水ソウ>

「あっ、クリオネだ！」何びきかのクリオネが水ソウの中をフワ...フワ...とゆ～っくり泳いでいる。

初ミサに呼ばれて海のある町へついた土曜の午後、夕食まで時間があるのでどうしようということになり、水族館へ出かけた。地元の神父さんは「小さくて何も無いよ」と。

近海の魚たちがゆ～っくり泳ぐ中、別の小さな水ソウにあのクリオネがいた。頭(?)が丸く、二つの短い触角が上に出ていて、胴には三角の手(?)ひれ?)が両側の一つずつあり、足(?)の先に行くにしたがってしばまっている。まるで白い着物を着た幽霊。そでを振って泳ぐ生き物。

どこか後ろの方からライトがあてられていて、体は白く透けて見え、真ん中に赤いのが光っている。巷では「妖精、天使のよう」と言われ、それがゆ～っくり...ゆ～っくり...フワ...フワ...と泳いでいて、なぜかしらいいな～と思う。

クリオネにとっては、自分をのぞいて行くあの生き物たちは、こんな小さな水ソウに入っていないといいな～と思うのだろうか? イエス様の水ソウで泳ぐ私たちは、どのように見えているのだろう。



今年もよろしく願っています。

会テーマ「平和」わたしから始まる地球の平和を深め、今後の奉仕につなげていくことが話し合われた。今回、活動理念を共感す

原司教様は、最後に「活動ばかりしていると勇み足になる。みことばを中心にしてまず祈り、体験から学んだ分かち合いで研修し、神が見える活動が大切」と導かれた。派遣ミサにあずかり、仙台理事会を閉会。ミサには仙台地区連合婦人会や男性にも参加頂き、新潟中越地震被害者のための祈りと献金

力がなされた。この度温かくご協力くださった神父様はじめ皆様方に深く感謝申し上げます。

(阿部正子)

「つくしの会児童合唱団」が初のCDを作りました。

覚えていますか、2003年岩沼市民会館で行われた「カトリック宮城県大会」で、美しい歌声を披露してくれたのがこの合唱団です。音楽による人づくりを目指した大河原教会の細淵誠一さんが1968年(昭和43年)大河原町に創設された音楽教育研究所・つくしの会を母体とする合唱団です。

このCDには、歌えばたのし・七つの子・大地讃頌・さくら・すばらしい明日のために等、23曲が収録されており、聴く人に共に生きるやさしさと勇気を与えてくれます。1枚1,800円。利益は新潟県中越地震救援のために送られます。お問い合わせ:よべる(高梨・土倉・赤尾)TEL&FAX:022-287-3796 高梨まで。



各地から

青森 大湊教会

2年間司祭不在となっていた教会に、一昨年主任司祭に土井文雄師の着任を得て、安堵と活気が教会内にみなぎっています。



日曜日のミサは、9時30分から行われており、10名前後の人がミサにあずかっています。少子高齢化のため、当教会も70歳代・60歳代が大半を占め、30歳代・40歳代は皆無に近く、20代以下の若者の姿はほとんど見られなくなり寂しいかぎりですが、発起人を中心に仙台地区の「路上生活者」への衣類等の寄贈、新潟中越地震に対する義援金の送付など、信徒一丸となった奉仕活動も行っております。

また、今年は教会の献堂50年・土井神父様の司祭叙階金祝の年、さらに幼稚園開園50年に当たるため、信徒会長を中心に記念行事の準備が進められております。大湊教会の機関紙「はまなす」は、歴代の編集委員の奉仕活動で、発刊以来30有余年の間に315号を数えるまでに至っておりますが、今回は更に編

集委員の皆さんが、献堂50年記念行事の先達となって、記念誌発行の編集に多忙を極めています。

(写真は雪囲いをしたマリア像)

岩手県 宮古教会

マリア会

私たちの教会は、岩手県沿岸北部のリアス式海岸と山に囲まれた静かな教会です。『マリア会』の発足は三代目主任のベ

トレムム宣教会のシユミドリ神父様の時でした。約40年の活動になります。それ以前は『婦人会』という名前でした。現在会員の平均年齢は70歳位になります。夏には小百合幼稚園の七夕祭りで作成した七夕祭りバザーを行い、その売り上げ益金はカリタスジヤパンなどに寄付させていただいております。秋の「死者の日」には先輩方のお点前で、「供茶



秋の「死者の日」

には先輩方のお点前で、「供茶

お祈りをして、会員の親睦のため

ます。今年の「死者の日」には特別な行事がありました。今年3月に亡くなった会員から教会のために寄付をいただき

ましたので、フェリペ神父様の案により聖堂の窓の絵をステンドグラスに更新することに

なり、その日に完成を祝いまして。ミサの中でステンドグラスの祝福「写真」があり、ミサの後で、故人の妹さんのバイオリン独奏でお祝いに華を添え

ました。この素晴らしい気持ちで、天国の彼女に伝えたい一心で次の歌を作りました。天国の虹の架け橋登り行き遊びし友としばし語らん

冬にはクリスマスマスの行事や、春には復活祭行事と、私たちマリア会会員は教会の縁の下で力持ちとして活躍しております。これもイエズス、マリア、ヨゼフ様のご加護の賜物と感謝いたしております。

(大戸冴子)

宮城 米川教会

小さな教会ながら遠来のお客さんが沢山いらっしやる米川教会の近況をお知らせしま

す。築館、新生園、米川、大籠を担当の会津神父さん



胸を痛めております。昨年は大きな団体として北海道や沖縄からも巡礼団がいらっしやいました。この地に生活している責任を感じながらクリスタンの里まつりの中で青空ミサを捧げ続けております。

サにあずかる信徒の数は毎週10名位です。ときどきフィリピンから嫁いできた奥さんと子供が参加した時は大変賑やかになります。この子供たちが青少年になった時仙台のいろいろな活動に参加できればと思っています。片言だった日本語も上手になりミサ後の集会にも参加してくれるようになりました。

福島 須賀川教会

(佐藤憲一)

今後も巡礼の皆様との関わりによって力を頂きながら、共々殉教者の信仰を生き延びたいと念じております。

また、昨年4月より主任司祭が高橋神父様となりました。高橋神父様は、白河教会の主任司祭も兼任されています。当教会は、信者数が少なく、とても小さな教会ではありませんが、チームワークがよく、とても家庭的で、親しみやすさが長所となっております。これからは、食事会などを通して白河教会の信者さん方、外国人の方と「和」を大切に、コミュニケーションを図っていきたく思います。

隠れクリスタン殉教の地ということで遠来のお客さんが沢山いらっしやいますが、連絡不足や当方不在もあり十分な対応や説明ができないことに

(先崎力ヤノ)

活動紹介

婦人会手芸クラブ

(東仙台教会)

1996年に支援を目的とした婦人会手芸クラブを創設しました。毎週教会に集う方や自宅での製作者、販売担当とそれぞれのタレントを活かし合っ

て活動しています。収益は、その時々

私の気分転換

聖心幼稚園(五所川原市)

園長 田丸均平

何も考えたくない時や嫌なことを忘れるために、時々映画を観に行きます。月平均2本程度、話題作や気分

に合わせ、ジャンルは問いません。しかし、映画よりも効果的に気分転換を図れるのは、叱られる

ラジルの田中亮神父様等へ献金を続けています。他教会の方からの作品提供の応援もあり、また県大会や仙塩地区連合婦人会のバザーなどで皆様の協力を頂きありがたく思っております。

2000年12月ブラジルから一時帰国された田中神父様が、手芸活動のころへ来てくださり、感謝のこぼをいただきました。神父様を囲んで懇談しながら現地の様子を教えていただいたことは、大きな支えとなつています。(その後、神

確かに、所属教会の一員として役割を果たし、協力することは大切なことです。ところが、そのことで私は強い義務感にとらわれてストレスを生じたことがあり、今は一歩距離を置くことが精神衛生上よいので

す。今日は家族が属する本町、次の主日は家に近い松ヶ丘、時々一人で浪打や勤め先のある五所川原の教会へと、これが結構心地よく、教会による雰囲気の違いを楽しむことが気分転換となつています。



婦人会手芸クラブのメンバーと作品

父様は天に召されました。また、元寺小路教会の婦人会の方々と共に、アフガニスタンの子供達へ手編みの帽子・マフラーを贈り、司教館とラ・サールホームへのリボンハンガー作りで、交流を深めたことも大きな喜びとなりました。今後とも私達の作品をよろしく願います。

(阿部正子)

修道院紹介

クリスト・ロア宣教師修道女会 喜多方レジデンス

私たちの会は、王であるキリストの祭日を定められたピオ11世によって命名されました。修道会は1928年カナダ

のケベック州ガスベにおいて初代司教フランシスコ・ザベリオ・ロス師の支援を受けて創立しました。米国を広めるというカリスマの下、次々と志願者が入会し、5年目には日本へ4名の宣教女が派遣されました。種子島でハンセン病の人々の世話をする予定でしたが、軍の反発のため島を出て川内、浦和などに移り教会や病院などの奉仕活動をしました。大戦中も日本に留まり終戦の翌年、聖ヨゼフホームを創設し戦争孤児を収容しました。現在は西東京市に移り地域の福祉化にも務めています。次の年、横浜教区の脇田司教の要請を受け復生病院の経営を引き継ぎました。現在、国際的宣教師修道会としてカナダ、中米、アフリカ、韓国、フィリピン等において宣教女

【編集部から】
新年おめでとうございます。新しい年が皆様にとって神の恵みに満たされ、福音宣教の實り豊かな年となりますようにお祈り申し上げます。
今年も皆様のご協力を得て『教区報』の編集に励んでまいりたいと思います。皆様からの積極的なご意見、投稿、情報提供をお待ち申し上げます。

訃報

仙台教区司祭団と共に働いてくださっているユン・ヨオク神父様のご母堂アン・セレナ様が11月24日16時、韓国・テジョンの病院で帰天されました。79歳。葬儀ミサ・告別式は26日、公州新管洞天主教会にて行われました。永遠の安息をお祈りください。

のお手伝いと地域の人々との関わりを大切にしながら、愛のあかしとなるように務めています。今後ともお導きをお願いします。(Sr.大茂)